



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	トクソーマックボンドII プライマーB
会社名	株式会社トクヤマデンタル
住所	〒314-0255 茨城県神栖市砂山 26
担当部署	品質保証 Gr
緊急連絡先	TEL: 0479-46-4708 FAX: 0479-46-3568
推奨用途	歯科用
使用上の制限	推奨用途以外への使用は禁止する

2. 危険有害性の要約

GHS分類	
物理化学的危険性	引火性液体：区分に該当しない 自然発火性液体：分類できない 酸化性液体：分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）：区分に該当しない 急性毒性（経皮）：区分に該当しない 急性毒性（吸入：ガス）：区分に該当しない 急性毒性（吸入：蒸気）：区分に該当しない 急性毒性（吸入：粉じん）：分類できない 急性毒性（吸入：ミスト）：区分に該当しない 皮膚腐食性／刺激性：区分に該当しない 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性：区分2 呼吸器感作性：分類できない 皮膚感作性：分類できない 生殖細胞変異原性：分類できない 発がん性：分類できない 生殖毒性：区分2 特定標的臓器毒性（単回暴露）：区分1（中枢神経系、全身毒性） 区分3（気道刺激性） 特定標的臓器毒性（反復暴露）：区分1（血液） 区分2（呼吸器、肝臓、脾臓） 誤えん有害性：分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）：分類できない 水生環境有害性 長期（慢性）：分類できない オゾン層への有害性：分類できない
GHSのラベル要素	
絵表示又はシンボル	 

注意喚起語	危険
危険有害性情報	強い眼刺激 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い 中枢神経、全身毒性の障害、および呼吸器への刺激のおそれ 長期にわたる、又は反復暴露による血液の障害、および呼吸器、肝臓、脾臓の障害のおそれ
注意書き	使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 換気の良い場所でのみ使用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。 蒸気を吸入しないこと。 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。 容器を密閉して換気の良い場所で、高温、多湿、直射日光を避け、「0～10℃」で保管すること。 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物	
化学名	濃度範囲	CAS 番号
イソプロピルアルコール (略号 IPA)	20-30%	67-63-0
精製水	70-80%	7732-18-5

4. 応急措置

吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。
皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぎ取り去ること。 水又は適温の流水で洗浄した後、石鹸を用いてよく洗い落とす。 皮膚刺激がある場合、又は気分が悪い時は医師を呼ぶこと。 脱いだ衣類を再使用する前に洗濯し、汚染除去すること。
目に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。水で5分間以上、注意深く洗うこと。 この製品が眼に入った場合、直ぐに洗浄を始め、入った製品を完全に洗い流す必要がある。不十分であると、不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> 口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。

予想される急性症状 及び遅発性症状	・唾液分泌過多、顔面紅潮、咳、めまい、し眠、頭痛、咽頭痛、意識喪失、吐気、嘔吐。
最も重要な兆候及び症状	・データなし。
応急措置をする者の保護	・適切な保護具を着用する。
医師に対する特別注意事項	・データなし。

5. 火災時の措置

消火剤	・小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤 ・大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤	・棒状注水
特有の危険有害性	・加熱により容器が爆発するおそれがある。 ・極めて燃え易く、熱、火花、火炎で容易に発火する。 ・火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 ・引火性の高い液体及び蒸気
特有の消火方法	・危険でなければ火災区域から容器を移動する。 ・移動が不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 ・消化後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	・消化作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用防護服を着用する。 ・風上から消化する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具および緊急措置	・全ての着火源を取り除く。 ・作業者は適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用し、眼、皮膚への接触や蒸気の吸入を避ける。措置する前に、換気する。 ・漏出物に触れない。
環境に対する注意事項	・環境中に放出してはならない。
回収、中和 封じ込め及び浄化方法・機材	・危険でなければ、漏れを止める。 ・ティッシュ、ウエス等に漏出物を吸収させて、そのまま密閉容器に入れる。
二次災害の防止策	・すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用する。 ・歯科診療における使用時は、当該製品の注意事項等情報（添付文書）の【使用上の注意】の記載通りに、保護具を使用する。 ・換気の良い区域のみで使用する。 ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一火気厳禁 ・この製品を使用する時に飲食、または喫煙をしないこと。 ・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 ・取扱い後はよく手を洗うこと。 ・環境への放出を避けること。 ・蒸気を吸入しないこと。 ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
技術的対策 局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	

接触回避	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に入れないこと。 ・飲み込みを避けること。 ・皮膚との接触を避けること。 ・高温物、スパーク、火気を避け、酸化性物質、有機過酸化化物との接触を避けること。
保管 技術的対策 混触危険物質 保管条件	<ul style="list-style-type: none"> ・消防法の規制に従う。 ・酸化剤、酸、塩基。 ・容器を密閉して換気の良い場所で、高温、多湿、直射日光を避け、「0～10℃」で保管する。 ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけて保管すること。－火気厳禁、禁煙 ・患者や子供の手の届かないところに保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	・イソプロピルアルコール 200ppm
許容濃度 ばく露限界値、 生物学的ばく露指標	日本産業衛生学会(2023年版)： ・イソプロピルアルコール 400ppm、980mg/m ³ 米国産業衛生専門家会議(ACGIH、2023年版)： ・イソプロピルアルコール TLV-TWA 200ppm、TLV-STEL 400ppm
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋（耐溶剤型）を着用する。注意：医療用（歯科用）手袋は本品の直接的な接触を防ぐが短時間のうちに浸透するので、本品が付着した場合は直ちに手袋を捨て、流水で手を十分洗浄すること。
目の保護具	保護眼鏡、ゴーグル、保護面等を着用する。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣等を着用すること。
衛生対策	保護具は定期的に点検する。取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態・色	無色透明液体	pH	データなし。
臭い	特有の刺激臭	動粘性率	データなし。
融点／凝固点	データなし。 参考：イソプロピルアルコール（以下IPA）の融点-90℃	溶解度	データなし。 参考：IPAの溶解度 1000 g/L(水)
沸点／初留点	データなし。 参考：IPAの沸点 83℃	n-オクタール／水 分配係数	データなし。 参考：IPAの分配係数 log Pow = 0.05
可燃性	データなし。	蒸気圧	データなし。 参考：IPAの蒸気圧 4.4kPa (20℃)
爆発下限界 及び上限界	データなし。 参考：IPAの爆発範囲 2～12 %	密度又は 相対密度	データなし。 参考：IPAの比重 0.78505 (20/4℃)
引火点	なし	相対ガス密度	データなし。参考：イソプロピルアルコールの蒸気密度 2.1
自然発火点	データなし。 参考：IPA自然発火温度 456 °C	粒子特性	データなし。

分解温度	データなし。	その他データ	データなし。
------	--------	--------	--------

10. 安定性及び反応性

安定性	・推奨する保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	・無水クロム酸、過塩素酸ナトリウム、塩素酸ナトリウム、亜塩素酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸、硝酸アンモニウムなど強酸化剤と激しく反応し、火災、爆発の危険性をもたらす。
避けるべき条件	・高温、多湿、直射日光を避ける。 ・フレイム及びスパーク発生装置から遠ざける。
混触危険物	・強力な酸化性物質、塩基、酸。
危険有害な分解生成物	・加熱分解により有害な蒸気、ガス(一酸化炭素、二酸化炭素)など。

11. 有害性情報

急性毒性	経口：イソプロピルアルコール（以下 IPA）に関して、LD ₅₀ =3,437(mg/kg-ラット)より、区分に該当しない。 経皮：IPAに関して、LD ₅₀ =4,059(mg/kg)より、区分に該当しない。 吸入(蒸気)：ACGIH(2001)より、IPAに関して、LC ₅₀ =29,512(ppm-ラット)より、区分に該当しない。 吸入（ミスト）：データなし。
皮膚腐食性／刺激性	IPAに関して、EHC 103（1990）、PATTY（6th, 2012）、ECETOC TR66（1995）のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103（1990）のヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、軽微ないし軽度の刺激性があると考えられ、JIS 分類基準の区分に該当しない（国連分類基準の区分3）。
眼に対する重篤な損傷／刺激性	IPAに関して、EHC（1990）、SIDS（2002）、PATTY（6th, 2012）、ECETOC TR48（1998）のウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分2である。製品は、IPAを10%以上含むため、区分2とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	IPAに関して、IARC 71（1999）でグループ3、ACGIH（7th, 2001）でA4に分類されていることから、分類できないとした。
生殖毒性	IPAに関して、ラットの経口投与による2世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述がある（IARC 71（1999）、EHC 103（1990））が、このデータの詳細は明らかではない。比較的新しいラットの経口投与による2世代試験では親動物に一般毒性影響（肝臓及び腎臓の組織変化を伴う重量増加）が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている（PATTY（6th, 2012）、SIDS（2002））。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠雌ラットに経口投与した発生毒性試験において、胎児には軽微な影響（体重低値、骨格変異）が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性（不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加量減少）がみられる用量で着床不全、全胚吸収など生殖毒性影響がみられている（PATTY（6th, 2012））。以上の結果、分類ガイダンスに従い区分2に分類した。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	IPAに関して、SIDS (2002)、EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第6巻 (2005) の記述から、本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制 (嗜眠、昏睡、呼吸抑制など)、消化管への刺激性 (吐き気、嘔吐)、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性 (咳、咽頭痛) を示す (EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第6巻 (2005)) ことから、気道刺激性を有する。以上より、区分1 (中枢神経系、全身毒性)、及び区分3 (気道刺激性) に分類した。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	IPAに関して、ラットに本物質の蒸気を4ヶ月間吸入ばく露試験で、100 mg/m ³ (ガイダンス値換算濃度: 0.067 mg/L/6 hr) 以上で白血球数の減少が見られ、500 mg/m ³ (ガイダンス値換算濃度: 0.33 mg/L/6 hr) 群では呼吸器 (肺、気管支)、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた (EHC 103 (1990)) との記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓であると判断し、血液は区分1、呼吸器、肝臓、脾臓は区分2とした。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期 (急性) :	IPAに関して、藻類 (<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>) 72時間 ErC50 > 1000 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) 48時間 EC50 > 1000 mg/L、魚類 (メダカ) 96時間 LC50 > 100 mg/L (いずれも環境庁生態影響試験, 1997) であることから、区分に該当しない。
水生環境有害性 長期 (慢性) :	IPAに関して、慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BODによる分解度: 86% (既存点検, 1993))、甲殻類 (オオミジンコ) の21日間 NOEC > 100 mg/L (環境庁生態影響試験 (1997)、環境省リスク評価 (2008)) であることから、区分に該当しない。
残留性・分解性	データなし。
生体蓄積性	データなし。
土壤中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	データなし。

1 3. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国連番号	該当しない。	
国連輸送名	該当しない。	
国連分類	該当しない。	
容器等級	該当しない。	
国際規制	海上規制情報	該当しない
	航空規制情報	該当しない
国内規制	陸上規制情報	該当しない
	海上規制情報	該当しない
	航空規制情報	該当しない

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 (法第57条、施行令第18条・別表第9)・イソプロピルアルコール 第2種有機溶剤等 (施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1 項第4号)・イソプロピルアルコール
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	該当しない

16. その他の情報

<p>参考文献</p> <p>[1] GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) (JIS Z 7253:2019) 日本規格協会 (2019年5月25日発行)</p> <p>[2] GHS分類結果データベース (独) 製品評価技術基盤機構ホームページ</p> <p>[3] GHS文書 改訂第4版、事業者向けGHS分類ガイダンス第3版(平成25年7月) 経済産業省製造産業局化学物質管理課ホームページ</p> <p>[4] GHSに基づく化学品の分類方法(JIS Z 7252:2019)日本規格協会(2019年5月25日発行)</p> <p>ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報や当社所有の知見によるものですが、これらのデータや評価はいかなる保証をするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。</p> <p>当該物の成分の含有量が当社にとっての営業上の秘密に該当する場合、もしくは、製造上の調整幅を必要とする成分の含有量については、重量パーセントではなく10%刻みの濃度範囲で記載しています。</p>
--